

◆ 旅立ちの日に ◆



昨日は卒業式。とても穏やかな日となった。

この良き日に、保護者やご来賓の皆様のご列席を制限せざるを得なかった。在校生も送辞を読む生徒会長と奏楽の吹奏楽部の生徒に限った。本当に心苦しかったが、とても温かな雰囲気の中で式が進んだ。

前生徒会長 K 君の答辞は、お世話になった（特に保護者の）皆さんに向けての「ありがとう」と「ごめんなさい」がちりばめられたものだった。壇上で目頭が熱くなる。

式辞には、彼らとの最初の出会いとなった「放送での」始業式の話とともに、今年度何度も触れた「**藤高クオリティ**」を盛り込んだ。

始業式では、本校校是の一つにもなっている「礼節を重んずること」を特にお願いしたのだが、彼の答辞にそれが反映されていたことがとてもうれしかった。

それにしても、様々なことに翻弄された学年であった。大学入学共通テストを巡る混乱に加え、インターハイや全国高等学校野球選手権大会の中止、全国高総文祭のWebでの開催等、これまでに経験したことのない状況に対応せざるを得なかった。どこにその心の矛先を向けてよいのかを想像すると、胸が痛む。

しかし、若さとは本当に素晴らしい。式が終わると、其処此処に笑顔の輪が広がっていた。昼過ぎ、3年生教室前の廊下を歩いた。何人かの生徒が「一緒に写真を」と言うので、喜んで応じた。その後、K 君をはじめ、旧生徒会の皆さんが校長室を訪れてくれた。

「この状況の中、今日の日を迎えることができたこと自体が大きな糧となるよ！」とエールを送った。

彼らとのお付き合いは、学校の生活単位としては最も短い1年間であったが、いろいろなことを学ばせてもらった期間でもあった。今日の日、卒業生を初めて送り出すことになった若き K 先生、E 先生にとっても特別な一日になったに違いない。

ご卒業 おめでとうございます・・・